



2014 年度事業報告・2015 年度事業計画書



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO



2014 年度を振り返って

2014 年度、荒川の本校は、旧小台橋小学校に移転をして 2 年目を迎えました。子どもたちは、バスや都電を使っただけの通学にも慣れ、時には田端の駅から 20 分をかけて歩く姿もあり、遠い中を頑張って通っていました。一方、新宿校では、180 センチを超える男子生徒たちが、肩をふれ合うほどの教室で机を並べて学習しており、狭い環境の中でよく勉強していました。

2014 年度、「たぶんかフリースクール」では、55 名が高校受験し、54 名が進学しました。高校進学者数は、昨年度と同数ですが、夏期講習期間等に学んだ子どもたちの数も含めると年間での生徒数は、70 名を越え増え続けています。国籍は、中国とネパール、次いでフィリピンが多く、タイ、パキスタン、ロシア、アメリカ、チュニジア、台湾、日本と国籍も様々でした。荒川校では、埼玉県や千葉県内で学ぶ場を見つけられず通う子どもたちが増え、進路指導はより複雑になりました。また、「たぶんかフリースクール」は、正規の学校でないため、子どもたちは通学定期を持つことができません。遠くから通う生徒にとって交通費は大変な負担ですが、ご支援いただいている企業からの交通費の助成は、学びの場へと繋げる大きな役割も担っていただいています。

学校教育の狭間において、学びたくても学べる学校がない学齢超過の子どもたちに対し、学びの場の保障を行政がしていくことは、必要不可欠であるといえますが、学齢超過の子どもたちにとり、初めて目撃唯一の公的支援であった文科省拠出国際移住機関(IOM)「定住外国人の子どもへの就学支援事業」は、2015 年 2 月をもって終了しました。この事業により、「たぶんかフリースクール」では、週 20 時間の授業が可能となり、より充実した授業が提供できました。3 年間で、391 名の子どもたちが高校へと進学しました。公的なデータにカウントされない学齢超過の子どもたちにとり、行政から受けた初めての実体あるサポートだったといえます。

2014 年 4 月 29 日 4 団体の共催で開催した「外国につながる子どもたちの『教育を受ける権利』を考えるフォーラム」では、成果と共に事業継続を望む声は切実で強いものでした。多くの団体等の働きかけにより、2015 年度も「帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業（Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業）」として予算化され事業継続が決まったことは嬉しいことでした。しかし、そのやり方は、大きく変わりました。事業実施主体は都道府県・市区町村（教育委員会・首長部局）で、その取り組みに対して総事業費の 3 分の 1 上限交付の補助事業となり行政と連携することが必要条件です。学齢超過の子どもたちは、学校教育の狭間で担当部署がない子どもたちです。連携先を打診しても「管轄外です」と言われ見つけることができず、現在、この事業の申請すらできない状況にあります。子どもたちに届く後継事業になるために行政は動いてほしいと思います。

多文化共生センター東京は、フリースクールの運営と共に、土曜日には、多くのボランティアの皆さんによって、外国にルーツを持つ親子、卒業生等に居場所、学習支援の場、交流の場を創ってきています。参加者は、年々増えており、子どもたちの元気な声と笑顔を見ると、こうした場が必要とされていることを感じます。子どもたちを取り巻く状況は、2015 年度も公的支援、入試改変等々厳しいものがありますが、様々な場と時間の中で今後も学び合い、高め合える活動をしていきたいと思っています。

多文化共生センター東京 代表理事 柗木 典子

2014 年度事業報告

1. 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

■ たぶんかフリースクール

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業者）や、来日期間が浅く日本語の初期指導を必要とする子どもたちに対し、毎日通学し、日本語や教科学習ができる学びの場と居場所を提供すること、最終的に高校進学につなげることを目的とし実施した。

また、不就学や不登校の子どもたちを公立学校に、学齢超過の子どもたちを高校進学につなげるための文部科学省拠出国際移住機関（IOM）「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（※以下「虹の架け橋教室」）を受託し、一部授業を行った。（2015年2月20日終了）

◆ 本校・新宿校

受験者数：55名

高校進学者数：54名

講師数：本校：担任3人 講師14人

新宿校：担任3人 講師16人

内容：子どもたちのための日本語指導と教科指導

高校進学のためのサポート

授業時数：週20時間 荒川校 1日5時間で週4日

新宿校 1日4時間で週5日



荒川本校会話授業の様子

| | 授業時間及びクラス開校期間 |
|----------|---------------------|
| 本校（火～金） | 10:00～15:50（通年） |
| 新宿校（月～金） | 9:00～13:00（通年） |
| | 11:10～15:10（9月～翌3月） |



新宿校授業の様子

学齢超過の子どもを主対象に、日本語の読む、書く、聞く、話す、読解力・思考力などの力を伸ばすこと、また、高校入試を視野に入れた日本語、教科学習（英語・数学など）や作文・面接指導などの高校入試サポートを行った。

8月の夏季集中コースは、本校、新宿校の各校で実施し、学齢超過生42名、小学生7名、中学生17名が参加した。荒川校では、学齢期の子どもたちが2学期の編入前に少しでも日本語を学びたいという要望が多く、小・中学生を対象としたクラスを開講し、ブレスクール的な役割を担った。

また、昼間の中学校に通う中3生も多く参加し、希望に応じて、理科・社会のクラスも開講した。夏季集中コース終了後は、土曜日の子どもプロジェクトで引き続きサポートを行った。

■ハートフル日本語適応指導事業

通室による日本語初期指導 9:00~12:00 週4日・2ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒たち13名が日本語を学んだ。

初期日本語修了後の補充指導 17:30~19:30の2時間 週3日・3ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象生徒たち16名（小学5年生~中学3年生）が日本語・教科を学んだ。

■「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」

（文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）から受託）

昨年度に引き続き、学齢超過の子どもたちは週20時間のうち、12時間を「虹の架け橋事業」で行い、8時間を自主事業で行った。また、義務教育段階の不登校・不就学の子どもたちは週20時間「虹の架け橋事業」で行い、3ヶ月を目途に在籍校につなげた。2015年2月20日で「虹の架け橋事業」が終了となったが、事業終了後も義務教育段階、学齢超過生とともに自主事業でサポートを続けた。

日本語や教科（英語・数学）、高校入試のサポートを受け、小・中学校に20名がつながり、学齢超過生は54名が高校進学を果たした。

◆2014年4月29日「外国につながる子どもたちの『教育を受ける権利』を考えるフォーラム」開催

このフォーラムは、「『学齢超過』の子どもたちの現状と取り組み」ということで、虹の架け橋教室の受託4団体（ABCジャパン・青丘社・多文化共生教育ネットワークかながわ・多文化共生センター東京）の共催で開催した。都内をはじめ遠く関西地区からの参加があり、参加者は130名を越えた。



■部会（教科会・進路部会・勉強会）

講師間の情報の共有化、教育内容の充実に向けて3部会を開催した。

- ・教科会（日本語・数学・英語）では、生徒の学習状況や指導法、クラス編成等について話し合った。
- ・進路部会では、高校受験に必要な情報を入れた進路冊子、面接冊子を編集作成した。
- ・勉強会では主に昨年度編集、作成した日本語教科書を使い、授業研究の勉強会を実施した。

■キャリア教育

「たぶんかフリースクール」では、企業のご支援を受けて、生徒が将来の夢を考え、次の進路につなげる「キャリア教育」を実施している。

◆ギャップ財団

2008 年よりギャップ財団からご支援を受け「キャリア教育プログラム」を実施している。このプログラムにより、今年度は本校担任 3 人、新宿校は 3 人を採用することができ、生徒や保護者との面談（10 月二者面談・12 月三者面談・その他必要に応じ随時）、進路に関する作文・面接指導のほか、高校の説明会への生徒の引率、日々の生徒対応、受験指導などきめ細かいサポートを行うことが出来た。また、以下のキャリアイベントを実施した。

① ストア体験活動

荒川本校（7 月 1 日）、新宿校（7 月 4 日）で、2 日に分けて行われた。両校合わせて 31 名が参加し、Gap（銀座、新宿、原宿、渋谷）、バナナ・リパブリック（銀座、吉祥寺、六本木）、OLD NAVY グランベリーの 8 店舗に行き、お客さまへの対応や商品の展示等について、社員のみなさんから多くを学ぶことができた。習ったばかりの日本語で熱心に交流する姿もあった。

② ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）ワークショップ

11 月 26 日、ギャップジャパンと東京ボランティア・市民活動センターが共同で企画運営した職業体験プログラム「ビジュアルマーチャンダイジングワークショップ」がギャップジャパン本社オフィスで行われた。本校、新宿校の生徒計 57 名が参加した。今回のプログラムでは、お店の環境を作る仕事について学んだ後、チームに分かれて担当ブランドのサンプル商品を使いアウトフィットづくりに挑戦した。社員のみなさんにアドバイスをいただきながら、小物や靴も含めた衣裳の組み合わせを考え、マネキンを使い発表した。プレゼンテーションに対して、大きな拍手が送られた。さまざまな役割で仕事が進められていることを学ぶことができた。



◆セールスフォース・ドットコム ファンデーション

3 月 23 日、プログラミング体験イベントに 2013 年度と 2014 年度のたぶんかフリースクール生 9 名が参加した。楽しみながらプログラミングの基礎を体験できる Hour of Code と呼ばれるオンライン教材を活用し、子どもたちは社員ボランティアのサポートを受けながら約 2 時間プログラミングに挑戦した。ほとんどの子どもたちは初めてプログラミングを体験したが、最後には、社員ボランティアの助けをかりずに教材に取り組む子どももおり、プログラミングの世界を知る良い機会となった。（生徒参加者 9 名）

■教育相談

主に電話およびセンターでの面接による相談で、来校での相談件数は本校 104 件、新宿校 44 件、合計 148 件の教育相談に対応した。相談内容は高校進学、小・中学校編入及び日本語・教科指導についての相談が多い。また、荒川区国際交流協会が実施する「リレー専門家相談会」に教育に関する専門家相談員を 1 回派遣した。

■たぶんか子ども基金

2009 年度より、継続的に UBS グループからご寄付をいただき、経済的な理由から授業料を負担することのできない家庭の子ども達の授業料を支援している。さらに、2012 年度より広く一般からも寄付を募っており、今年度は一般寄付者からのご寄付 60 万円の目標に対し 821,735 円を頂いた。

■調査

2014 年度 4 月に UBS グループのご支援で、『外国にルーツのある子どもたちの高校進学に関する実態調査報告書』を発行した。従来の進路ガイダンス調査に加えて、2015 年 2 月で終了となった「定住外国人の子どもへの就学支援事業」(虹の架け橋教室)の受託団体のうち 11 団体が支援した学齢超過生徒についての進路調査を行った。加えて外国にルーツを持つ子どもたちの入試実態についての報告と、「多文化共生センター東京」でボランティアを続けながら子どもたちの進路について考察した大学生の論文の一部の抜粋なども掲載した。

■日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス

武蔵野市国際交流協会、ピナット、OCNET、IWC、八王子国際協会、CCS、多文化共生教育研究会、多文化共生センター東京、CTIC、青少年自立援助センター、一般社団法人レガートおおた、東洋大学 SPIRIT の 12 団体による実行委員会で多言語による高校進学ガイダンスを開催した。

◆開催日・場所：

6月22日(文京)、7月6日(武蔵野)、7月20日(大田)、9月28日(品川)、10月5日(文京)、10月19日(八王子)の6回開催。うち文京の2回の事務局を当センターが担当。

6月22日には73名、10月5日には72名、6回あわせて346名の参加があった(2013年度は6回合計で319名)。ガイダンスでは、日本語を母語としない中学生や学齢超過の子どもとその保護者に対して、学校制度や高校進学についての具体的な情報を提供すると同時に、ボランティアやNPOによる学習支援等につなげ、ガイダンス後のフォローも行った。また、教員や支援団体だけではなく、心理士と行政書士を相談員として、より広範囲な対応ができるようにした。

2014年度は外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援プロジェクトを行っている東洋大学の「SPIRIT」に実行委員会に入ってください共催とすることで、東洋大学内で開催することができた。

その他、7月には新宿区未来創造財団から当センターが運営を受託して、新宿区でもガイダンスを開催した。



文京会場の様子

■子どもプロジェクト

子どもプロジェクト

(ボランティアによる日本語と教科の学習支援と居場所づくり)

週に1回、ボランティアにより、日本語や教科の学習支援を基本的に個別対応で行った。受験期には、作文指導や面接練習なども集中的に実施した。また、企業や大学からのボランティアの受け入れ先としても機能した。(「東京都子育て応援ファンド事業」を受託し、一部運営)



クリスマス会の様子

◆日時：毎週土曜日 15:30～17:30

◆参加人数：ボランティア 10～20名/回
子ども 10～30名/回

■アクティビティ

フリースクール講師・土曜ボランティア、企業の協力で、校外学習やスポーツなどの行事を行った。

1. 6月17日 スポーツイベント

セールスフォース・ドットコムのご協力で大体育館を借りて新宿校の子どもたちのスポーツイベントを開催した。生徒15人が参加し、社員ボランティアの人たちとチームを組んで、バトミントンやドッチボールを行った。ふだん体を動かす場所のない新宿校の生徒たちはおおいに楽しむことができた。

2. 8月24日 サマーバーベキュー

UBSグループのファミリーイベント「サマーバーベキュー」にご招待いただき、多摩川バーベキューサイトで「たぶんかフリースクール」生、スタッフ、講師42名ほどが参加し、UB社員・家族とバーベキューを楽しんだ。



3. 10月25日 鎌倉・江の島 遠足

セールスフォース・ドットコムのご協力で、鎌倉・江の島遠足を行った。「たぶんかフリースクール」生、講師・スタッフ、社員ボランティア101名がチームをつくり、江の島や大仏などをまわった。遠足後の交流会では、子どもたちが遠足の様子を日本語で発表した。

4. 12月19日 新宿校クリスマスパーティー

アトミジャパン合同会社のご寄附により秋学期の最終日に、新宿校の生徒・講師約30名が参加し、新宿校でお楽しみ会をおこなった。ビンゴゲームをしたり、生徒がひくギターにあわせて歌を歌ったりして盛りあがった。

5. 12月20日 クリスマス会

アトミジャパン合同会社のご寄附によりクリスマス会を行った。「たぶんかフリースクール」生や子どもプロジェクトの学習者を中心に、卒業生や、卒業生の友だち、ボランティア、ご支援企業の華為技術日本株式会社の社員等総勢 100 名近い参加者で、クイズやカラオケなどを行い盛大な会となった。

6. 3月13日 新宿校修了パーティー

アトミジャパン合同会社のご寄附により、新宿校の生徒・講師約 30 名が参加し、修了パーティーを行った。ひとりずつ思い出や高校に合格した喜びを語り、歓談を楽しんだ。別々の高校に進学する生徒たちが写真にメッセージを書きあってお互いを励ます様子も見られた。

7. 3月15日 卒業を祝う会

アトミジャパン合同会社、華為技術日本株式会社のご寄附により、荒川希望の家で、新宿校・荒川校合同の卒業を祝う会を行った。「たぶんかフリースクール」生、講師、スタッフ、ボランティア、ご支援企業の社員 80 名が参加し、子どもたちの門出を祝った。



評価と課題

①たぶんかフリースクール

4月は例年のように少人数授業から始まったが、8月以降、生徒数が一気に増加し、11月以降、日本語ゼロ初級で入学を希望する生徒まで対応できず、子どもプロジェクトや他団体につなげ、来期まで待ってもらったこともあった。生徒の多くが東京都在住者であるが、荒川本校では千葉、埼玉県在住者が昨年度よりもさらに増えた。この2県の高校受験は5教科入試でハードルが高く、「たぶんかフリースクール」の都外受験生は、都内への引っ越し、あるいはアルバイト先がある東京都の昼夜間定時制を選択する生徒もいた。都立高校受験についても、3教科受験校の減少に伴い、選択肢が少なく、自分にあった高校を選べない状況が生じている。厳しい状況ではあったが、担任をはじめ、先生方の学習面、精神面でのきめ細かいサポートにより、54名が高校進学を果たすことができた。学びの場、居場所という目的では、ほとんどの生徒が3月末の卒業を迎えることができたが、中途退学、休学の生徒も数人おり、家庭の経済状況、家族関係の複雑さ等が大きかった。子どもたちが安心して学び、高校進学を目指すためには保護者との連携が不可欠である。通ってくる生徒の国籍や言語も多様化しているため、今後、必要に応じて通訳をつける等、より細目に連絡を取り、本人・保護者とともに進路を考えられる体制を作っていきたい。

また、学齢超過生以外にも小・中学校編入前に少しでも日本語を学びたい、不登校になり、学ぶ場を探している等、学齢期段階の生徒や保護者、学校からの相談や問い合わせも増えており、ニーズも多様化してきている。学齢期の生徒は、8月の夏季集中コースで小・中学生クラスを開講する等、可能な限り対応した。

今年度も引き続き「虹の架け橋事業」を受託し、週20時間の授業を行うことができた。早い時期から会話授業、教科指導を始める、より難易度の高い国語読解に取り組む等、受験に向け、より充実した授業展開をすることができた。平成28年度より都立高校一般入試が5教科となり、外国から来た子どもたちにとって高校進学がますます厳しくなることが予想される。1年から半年という短期間の中で様々なレベルの生徒に対応した授業内容が求められることに加え、より厳しくなる入試を見据えたカリキュラムの検討、進路指導が求められ、講師間の連携がますます大切となる。

2015年2月20日をもって「虹の架け橋事業」が終了し、来年度以降はすべて自主事業での運営となる。都立高校入試制度の大幅な変更に伴い、今後より一層の支援が必要となるため、次年度も週20時間のカリキュラムを行っていきたいと考えているが、公的支援のない状況でそれを維持していくのは難しく、運営面において大きな課題を抱えている。

②ハートフル日本語適応指導事業

外国から来日して荒川区内の中学校に編入した中学生は午前中3時間、週4回、2か月間の「通室による初期日本語指導」が受けられる。また、荒川区内の小学5年生から中学3年生までの児童・生徒は「補充日本語指導」を5時30分から2時間、週3回、3か月間学ぶことができる。中学生は希望をすれば併せて5か月間にわたる初期の日本語を学べる。この制度により、2014年度は13名の中学生が「通室による初期日本語指導」を、16名の中学生が「補充日本語指導」を受けられた。ハートフル適応指導を希望する生徒や児童は日本の学校に編入してくる時期が一定ではなく、また、来日しても日本語が全くできない生徒たちが大部分を占めている。そのため、友達もできず、日本の学校生活になかなか馴染めず、さまざまな悩みを抱えながら、落ち着いた活気のある日常生活ができるまでの数か月間は戸惑いの生活を余儀なくされている。今期は学校側の協力を得て、適応指導下においても逐一、学校の先生方、保護者との情報交換も積極的に得られ、適応指導の生徒たちをサポートすることができた。生徒たちもこの数か月間は殊に親身な目配りと心配りが欠かせなかった。適応指導開始前には学校と保護者を交えての面談を実施したので、その後の適応指導に生かすことができた。また、2月～3月の学年末にはそれぞれの学校に赴き、その後の学校生活の様子、学校での日本語指導等、情報交換をすることができた。

「ハートフル日本語適応指導事業」は荒川区教育委員会と小・中学校の先生方、そして保護者の連携により、5年目が終了した。2013年度から、多文化共生センター東京（荒川）の移転に伴い、安全面を考慮し、ハートフル対象の小中学生が通いやすい場所ということで、本事業は、荒川区教育委員会の配慮により、三河島の荒川区教育センターで行われている。今年度は生徒数の増加で、従来の教室の広さでは指導が困難になった。教育委員会に教室の変更を要望し、その結果、週3回のうち2回、別の教室を提供していただいた。今後も生徒数の推移に対応し、整った学習環境で指導できるよう、教育委員会との更なる連携が必要である。

③「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」

（文部科学省の拠出を受けた国際移住機構（IOM）から受託）

「虹の架け橋事業」に学齢超過生が積算対象に加わって3年目となり、最終年度を迎えた。今年度も昨年度と同様、学齢超過生は「虹の架け橋事業」と自主事業合わせて、週20時間の授業を行うことができた。この3年間で240名の子どもたちが学びの場を得、52名の生徒が小・中学校につながり、137名（2014年度進学者を含む）の生徒が高校進学を果たした本事業の成果は大きい。授業内容も週12時間から20時間に授業時間数が大幅に増えたことで、文型読解、作文・面接に加え、会話の授業や、国語読解等、高校進学に必要なカリキュラムを充実させることができた。本事業が周知され、生徒数、保護者や区、学校からの相談も年々増加しており、今後も増えていくことが予想される。また、平成28年度より都立高校入試制度が大きく変わるため、外国から来た子どもたちにとって更に厳しい状況が予想され、今後一層の支援が必要となる。次年度以降どのようにして本事業によって提供できたプログラムを継続させていくかが大きな課題となっている。

④教育相談・入学相談

相談件数は団体の活動が周知されたこと、「東京都子育て応援ファンドモデル事業」を受託し、多言語対応相談窓口を開設したこともあり、相談件数が昨年度より大幅に増えた。これまで口コミからの問い合わせが多かったが、都の相談窓口や区の教育委員会等、公的な相談窓口から紹介を受け、当団体につながるケースが増えている。相談者は都内、または隣接する県からの問い合わせが多いが、その他の県からの相談もあり、地元の支援者、支援団体につなげる等、できる限り対応した。相談内容の多くが学齢超過生の高校進学や日本語、教科学習に関するものだが、その他不登校や留学、在留資格等、相談内容は多岐に渡っており、相談者の言語も多言語化している。

小・中学校編入等、学齢期の相談も年々増えてきている。本人・保護者だけでなく、学校側からも、編入前に少しでも日本語を学んでほしいという要望が多く、できる限り「虹の架け橋事業」で教室を開講し、対応した。「虹の架け橋事業」が終了した2015年度以降、どのように学齢期の子どもたちを受け入れていくかが課題となる。今後、自治体、教育委員会、学校との更なる連携が必要である。

⑤調査

2014年度4月発行の『外国にルーツのある子どもたちの高校進学に関する実態調査報告書』では、「虹の架け橋教室」の成果をまとめるために11の受託団体にご協力をいただき、学齢超過の子ども達の進学に関する広範囲の調査をすることができた。今後も東京都でのガイダンスアンケートを中心に外国にルーツを持つ子どもの調査を続けていくが、年々変化していく子どもたちの状況に対応し、他にどのような調査を行うかを検討する必要がある。

⑥日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス

2014年度も実行委員会としては計6回の実施ができた。当センター担当の2回にも145名が参加した。これまで当センターが担当する2回は固定の場所がなく、公共施設の抽選によって開催の場所が左右されていたことが前年度までの課題であった。2014年度は東洋大学の「SPIRIT」に実行委員会に入

っていただき共催とすることで、東洋大学内の場所を無償で借りることができた。アクセスもよい場所だったため、悪天候にも関わらず前年度より参加者が増えた。今後も継続して開催してもらえよう、連携していきたい。

課題としては、ガイドブックの情報が古くなってきたことがある。現在ガイダンスに使用しているガイドブックは 2011 年度版で、この数年での受験方法の変化などで修正箇所が多くなっている。その度に差し替えや挟み込みで対応してきたが、2016 年度入試には大きな変更があるため、今年度中に大幅な改定を行わなければいけない。

⑦子どもプロジェクト（土曜日の学習支援 15:30~17:30）

ボランティアと子ども、双方の数が合わず、時にばたつくこともあるが、概ね活動は安定している。来日間もない子どものひらがな指導から、比較的高度な受験対策まで、子どものニーズは幅広く、時には「難問」にボランティアの側が困惑する場面もあるが、可能な限り、子どもたちのニーズを満たせるようボランティアの側も取り組んできた。

最近、埼玉や千葉の子どもたちの増加、都立の 5 教科受験への対応も必要になり、特に「理数系」に対応できるボランティアを確保する必要があると感じている。参加するボランティアは下は高校生から上は 80 代の方まで、年齢や環境も多種多様、子どもたちも非受験生の中学 1 年から多文化 O B の高校生、時には就活中の大学生までバラエティに富んでいる。来日間もなく不安いっぱいの子供たちをやさしく励ますボランティアさん、子どもたちのひたむきな頑張り逆に元気をもらうボランティアさん、教室に流れる空気は穏やかで、子どもたちにとって大切な場所であることはもちろん、ボランティアにとっても重要な「居場所」となっている。しかし、「学習場所」と「居場所」の両立は時に矛盾する課題もあり、折り合いのつけ方は難しさを感じている。また、個人別の「計画的な学習」という面ではまだまだ課題を残している。

2. 外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

■親子日本語クラス

外国にルーツを持つ小学生以下の子どもや保護者（大人）を対象に、週に 1 回、ボランティアにより、日本語や教科の学習支援を基本的に個別対応で行った。小学生クラスでは最後の 20 分を全体学習とし、みんなで共通課題を行った。また学習者が様々な体験ができるよう校外活動を主とするアクティビティを実施した。（「東京都子育て応援ファンド事業」を受託し、一部運営）

◆日時：毎週土曜日 13:00~15:00

◆参加者：学習者 55 人（のべ 409 人）、平均 10 人/回。ボランティア 56 人、平均 10 人/回。

◆子どもクラス

来日間もない子どもたちには、日本語の「ひらがな」からの学習を支援した。継続して来る子どもたちには、算数と国語を中心に宿題を含めた教科学習も支援した。また、クラス最後の 20 分を全体学習とし、みんなでカルタ、作文、工作などを行った。

◆親（大人）クラス

一人ひとりのニーズに合わせ、子育てや生活、また仕事に必要な会話の学習や漢字かなまじり文を中心とした読み書きの学習を支援した。

◆アクティビティ

保護者、ボランティア、企業の協力で、校外学習や行事を行った。 **尾久八幡神社のお祭り**

1. 8月2日 尾久八幡神社のお祭り見学

2. 9月23日 「たぶんかユースフェスタ」への水餃子屋台出店

「たぶんかユースフェスタ」に親子日本語教室で「水餃子」の屋台を出店した。「水餃子」屋台は、小学生クラスで屋台装飾を作り、大人クラスとボランティアで水餃子を作り、「たぶんかフリースクール」荒川本校・新宿校の生徒そしてこどもプロジェクトの生徒たちが販売し、早々に200食を完売した。



3. 12月20日 クリスマス会

本校クリスマス会の前に、親子日本語クラスの学習者とボランティアでクリスマス会を行った。

評価と課題

6年目となる「親子日本語クラス」は、小学生の日本語学習や教科学習の支援を中心とし、親（大人）も日本語を学び、生活面などの相談ができる教室という位置づけに変更して2年経過した。学習者が増加し年齢も多様化した。ボランティアの数も増えたが学習者の増加、そしてそれぞれの回の学習者の増減などで個別対応ができないことが幾度もあり、ボランティアの確保が課題であった。「親子日本語クラス」は、日本で暮らしていくための日本語習得や学校の教科学習を支援する場であるが、小学生にとって意欲を持って学習を続けることは容易ではなく、学習に集中できる環境を整えることが課題である。しかし一方「親子日本語クラス」は、子どもたちが自分と同じような境遇の仲間と一緒にいることで、安心して自分をだせる居場所となっており、全体学習や校外活動では、子どもたちは母語と日本語の両方を使って、活発に楽しく協力したりまた競争したりしていた。この安心できる居場所を大事にして、「よく学べ、よく遊べ」の環境を目指す。

■子育て応援ファンドモデル事業

《事業の趣旨（東京都福祉保健局）》

全ての人々が安心して子供を産み、育てられる環境の整備を進めるためには、社会全体で子育てを支えることが必要です。東京都では地域など様々な場で創意工夫を凝らして取り組む先駆的、先進的取組を支援するため、平成 27 年度から運用開始予定の「東京都子育て応援ファンド」創設に先立ち、モデル事業として実施。

「外国にルーツを持つ親子支援事業」平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月末

外国にルーツを持つ親子が安心して子育てや教育を受けることができるための支援や環境づくりを目指し、関係機関や地域と連携しながら実施する。

1. 相談事業 対象者 外国にルーツを持つ子どもと保護者

助成委託期間内の相談件数は 60 件以上にのぼり、日本語や学校教育についての相談が最も多かった。

フリースクールへの受け入れ、小中学校編入について同行等で対応し学びの場に繋がった。

- ①相談活動は、電話対応や来所相談で随時実施した。（助成期間内での相談件数は、60 件以上に上る。）
- ②同行支援 小学校や中学校、児童相談所等に同行した。

2. 人材養成 多言語養成講座 全 6 回実施（11/26,12/14,1/25,2/22,3/16,3/29）

日本で育ち、母語と日本語のできる外国にルーツを持つ青年層が相談支援者として参加し、同行支援もする機会があり、研修したことを活かした。（参加者：延べ 29 人）

対象者：多言語での相談支援希望者

（日本に住み母語と日本語ができる青年を含む）

言語：中国語、英語、ネパール語、インドネシア語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、韓国語

内容：多言語支援者の役割、在留資格、子育て教育、外国にルーツを持つ子どもたちの抱える悩みについて



多言語養成講座の様子

3. 学習支援・居場所づくり

活動場所：荒川区 多文化共生センター東京 活動日：毎週土曜日

3. 人材育成事業

■講師派遣・研修受け入れ

国際交流協会、ボランティアセンター、行政、NPO、大学等などが行う研修会・講演・ワークショップに計 11 件の講師派遣などを行った。ボランティア・インターンの受け入れについては、2 大学経由で 3 名のインターンを受け入れた。また、千代田区社会福祉協議会「日本語ボランティア養成講座」（全 4 回）、公益財団法人新宿未来創造財団「外国人・帰国子女のための高校進学ガイダンス」、ベネッセ教育総合研究所「WEB フォーラム 社会問題を知ること何を考えているか考える」（全 2 回）を受託した。また、「新宿区多文化共生まちづくり会議」に委員として、「東京ボランティア・市民活動センター」に運営委員として参加した。

■多文化共生のためのボランティア講座等

ボランティア希望者を主対象とし、月1回ボランティア講座を実施し、毎回8~10名程度、年間で約120名の参加があった。

評価と課題

講師派遣は年々フリースクール事業が大きくなるにつれて、スタッフの手が回らず、件数が減ってきている。毎月1回のボランティア講座は昨年度より参加者が増えた。参加者はボランティア希望者だけでなく、団体の活動に興味を持った高校生、大学生が増えている。また、年度始まりは講座への参加者が多く、ボランティアにもつながりやすいが、学習支援教室へ来る生徒が少ないため、子どもたちと関わる機会が少ない。反対に子どもたちが増えて来る8月以降は講座参加者の数が落ち着き、受験期にボランティアが足りなくなることがあった。次年度は一度関わったボランティアに長く団体に関わってもらえるよう、ボランティア間の勉強会等を行い、つながりを強めていきたい。

団体内部での勉強会、研修会は講師間では自主的に開催されたが、その他研修会を開催することができなかった。次年度はニーズを聞き、研修会を充実させ、スタッフ、講師、ボランティア同士の連携を図っていきたい。

4. 多文化共生のための情報提供事業

活動と理念に対しての認知を高め、多くの方に賛同・支援をいただくため、ニュースレター、web、ブログ、メールマガジンなどの媒体を使用し、広報活動を行った。

■ニュースレター(みんぐる)

活動報告と多文化共生に関する記事を中心に年4回500部ずつ発行し、昨年度に引き続き、ご支援企業・他の支援団体・中間支援団体などに幅広く配布した。また、中間支援団体など計5団体各20部配架をお願いしより多くの方の目にふれるようにした。記事の内容については、団体の活動報告に加え、子どもたちの教育環境などをわかりやすく解説する記事を掲載した。

■ウェブサイト

東京都子育て応援ファンドモデル事業「外国にルーツを持つ親子支援事業」の取り組みとして日・中・英の教育相談ページを作成した。

■フェイスブック・ツイッター

日々の「たぶんかフリースクール」の子どもたちの様子やイベントなどの活動報告をフェイスブック・ツイッターでおこなった。(2015年3月末時点 フェイスブック いいね 合計959 ツイッター フォロワー 527名)

■メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

団体の活動内容や多文化関係のイベント情報の配信を行った。(8回発行 2015年3月末時点 読者数: 638名)

■メーリングリスト(多文化だより)

団体の活動内容や最新の出来事等を会員向けに配信を行った。(7回発行 2015年3月末時点 読者数: 140名)。

評価と課題

ニュースレター「みんぐる」は、年4回定期的に発行し、活動報告や団体につながる多様な背景の方に記事の執筆をしていただき広く配布を行った。団体の活動を広く配信する役割を果たしていると言える。また、フェイスブックでは主に「たぶんかフリースクール」の様子を伝える事で子どもたちについてより多くの方に知ってもらうことができた。一方で、Web サイトについては、日・中・英で教育相談のページを改定・増設し教育・進学情報を必要としている保護者や子どもたちに届ける試みを行った。

ただ、一部のページでは情報が古くなっており、逐次更新をしていくことが必要である。また、最新の入試制度などをよりわかりやすく保護者や子どもたちに伝わるようなウェブサイトを作っていくことが課題である。

5. その他の特定非営利事業

■ たぶんか★ユースフェスタ 2014

◆日時：2014年9月23日（日）

◆場所：あらかわ遊園 遊歩道



屋台の様子

たぶんか★ユースフェスタ 2014 は、東京ボランティア・市民活動センターとの共催、UBS グループ特別協賛、荒川ボランティアセンター協力、荒川区・荒川区国際交流協会の後援により開催

した。外国にルーツを持つ子どもたちのパワーや多文化であることの豊かさをより多くの人に知ってもらうため、地域に開かれたフェスタを目指した。「たぶんかフリースクール」の子どもたちが自国の文化紹介や母語で来場者のネームプレートを書くブース、保護者や子どもたちによる世界の屋台料理、多様なバックグラウンドを持つ若者による釜石物産販売、福祉作業所によるパンの販売などの出店を行った。また、荒川区のマスコット「あら坊、あらみい」の着ぐるみをお借りし、高校生ボランティアが会場を盛り上げたり、荒川区で活動するボランティアグループが誘導などのボランティアでイベントを支え、大人 100 名、20 歳未満の子ども 80 名がボランティアとして参加した。

当日は晴天に恵まれ、あらかわ遊園の来場者や近隣の方々が約 1000 名来場した。

「たぶんかフリースクール」の生徒たちは来日間近で、日本人と触れ合うことはほとんどないが、来場者の地域の方々に自国の言葉や文化を紹介できる貴重な場となった。また、来場者の子ども達も初めてみる外国の文字に興味を示したり、大人の方もめずらしい屋台料理について販売している外



ステージ発表の様子

国の子ども達に質問をしたり交流がうまれた。今後も地域には、「外国にルーツを持つ子ども達」のパワーや「多文化」の楽しさを伝え、子どもたちには、地域社会と接し自己を表現できる場をつくっていききたい。

一方で、多くの団体やボランティアのみなさんのご協力を得ながらフェスタを開催したが、多文化共生センター東京の事務局スタッフに運營業務が集中しフリースクールなどの日常業務との両立が難しくなることもあった。またフェスタ当日の指揮系統が明確でなく運営面での課題が残った。今後は、事務局スタッフに加え、他団体・ボランティアと協力して運営体制をつくりユースフェスタを開催することが必要である。

■ 多文化の未来を考える会

2013年6月に「多文化の未来を考える会」が発足し、以下3つのチームが立ち上がった。2014年度で「多文化の未来を考える会」としての活動は終え、次年度以降は事務局を中心にそれぞれの活動に取り組む。

■ 行政チーム

「虹の架け橋事業」の成果報告の場として2014年4月29日に「学齢超過」の子どもたちの現状と取り組みについてのフォーラムを開催した。結果、「虹の架け橋事業」の後継事業として「定住外国人の子どもの就学促進事業」が引き続き実施されることとなったが、この事業は地方自治体との連携が不可欠となっている。学齢超過生は都全域、近県に渡って在住しているため、自治体との連携は困難である。また、既卒の学齢超過生は中学校にも高校にも在籍していないため管轄外とされ、教育委員会内に担当部署がなく、連携そのものをゼロからスタートさせなければならない。

■ 寄付チーム

多文化共生センター東京の活動に対する共感を広げ、一般寄付を増やすことを目指してチームを立ち上げた。しかしチームとしての動きを、実質的につくることはできなかった。一方で個人の方からの一般寄付は増加傾向にある。2014年度は会員の皆様を中心に、一般寄付合計1,790,633円をいただいた。次年度は、事務局を中心に、団体の活動を応援してくださる会員を募るとともに、最新の活動報告など会員向けの情報発信を充実させていきたい。

■ 新規チーム

新規チームは、高校中退または高校卒業後も次の進路につながない「たぶんかフリースクール」卒業生の就労や進路に関する相談体制を確立し、日本で自立し手に職をつけたいと願う卒業生に対し、就労につなげる支援を行うことをめざした。しかし、具体的で明確な事業案を作ることができなかった。より深く非正規就労についている卒業生や外国にルーツを持つ若者の状況を理解し課題発見をすることが必要である。引き続き必要な支援は何か団体の事業として事業化できるか考えていきたい。

2014 年度団体、企業等からの助成/寄付/協力

(敬称略 50 音順)

■アトミジャパン合同会社

- ・子どもプロジェクト・親子日本語クラス「クリスマス会」への助成
- ・「たぶんかフリースクール」本校・新宿校「卒業を祝う会」への助成
- ・本棚・掃除機等備品の寄贈

■Gap Inc. (ギャップ財団)

- ・「たぶんかフリースクール」の「キャリア教育プログラム」への助成
- ・Gap、バナナ・リパブリック、OLD NAVY でストア体験活動（生徒参加 31 名）
- ・ギャップジャパン本社での VMD ワークショップ開催（生徒参加 57 名）
- ・「たぶんかフリースクール」本校・新宿校へのストーブ・テレビ・パソコン等の備品寄贈
- ・「たぶんかフリースクール」本校・新宿校の環境整備ボランティア
- ・夏休み宿題週間や子どもプロジェクトへの学習支援ボランティア
- ・一般寄付

■セールスフォース・ドットコム

- ・新宿校の生徒・講師と社員ボランティアとのスポーツイベント開催（生徒参加 15 名）
- ・「たぶんかフリースクール」生と社員ボランティアとの鎌倉・江ノ島交流遠足開催（生徒参加 76 名）
- ・「たぶんかフリースクール」卒業生進路調査支援・就職面接指導サポート（卒業生参加 2 名）
- ・プログラミング体験イベント“Hour of Code”を開催（生徒参加 9 名）
- ・一般寄付

■東京都高等学校教職員組合

- ・「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への助成

■華為技術日本株式会社

- ・「たぶんかフリースクール」生の通学交通費補助のための寄付
- ・「たぶんかフリースクール」本校へ図書の寄贈
- ・中国語が母語の「たぶんかフリースクール」生への学習支援ボランティア

■UBS グループ

- ・「たぶんかフリースクール」に在籍する低所得家庭の子どもたちのための教育支援金への寄付
- ・英検の二次面接練習への「面接教室」ボランティア
- ・英語で在京外国人枠を受験する生徒のための「英語エッセイと面接教室」ボランティア
- ・「親子日本語クラス」・「子どもプロジェクト」への学習支援ボランティア

- ・「たぶんかフリースクール」卒業生のインターシップによる人材育成プログラムへの助成
- ・ファミリーイベント「サマーバーベキュー」への招待
- ・「たぶんか・ユースフェスタ 2014」への特別協賛、運営協力
- ・一般寄付

メディア掲載歴

■新聞

- ・毎日新聞 2014年8月25日 外国人の子 学業支援 当事者ら「やめないで」
- ・日本経済新聞 2014年12月1日 学びの現場から 第2部 異文化と向き合う
- ・読売新聞 2015年1月23日 教育ルネサンス 教師を語る7 「外国人と学び合う空間を」

■雑誌

- ・光村図書 かざぐるま通信 No.30 学校の外からのサポート
- ・公益社団法人 日本フィランソロピー協会 フィランソロピー2014年12月-2015年1月号

■ウェブサイト

- ・CO-BO ベネッセ教育総合研究所 「外国にルーツを持つ子どもたちが直面する就学問題」フォーラム多文化共生センター東京編
- ・知のネットワーク SYNODOS 外国にルーツを持つ子どもたちの学びの保障
—多文化共生センター東京の現場から—

2014 年度決算報告書

2014年度 特定非営利活動に係る活動計算書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

[税込] (単位: 円)

| 科 目 | 金 額 | |
|----------------------------|------------|------------|
| I 経常収益 | | |
| 1. 受取会費 | | |
| 正会員受取会費 | 487,500 | |
| 賛助会員受取会費 | 387,000 | 874,500 |
| 2. 受取寄付金 | | |
| 受取寄付金 | 18,044,618 | 18,044,618 |
| 3. 受取助成金 | | |
| 受取助成金 | 3,818,436 | 3,818,436 |
| 4. 事業収益 | | |
| (1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業 | 33,018,271 | |
| (2) 多文化共生に関する人材育成事業 | 711,324 | |
| (3) 多文化共生に関する情報提供事業 | 76,828 | |
| (4) 外国人の家族と子育て支援事業 | 69,821 | |
| (5) その他の非営利活動事業 | 212,000 | 34,088,244 |
| 5. その他収益 | | |
| 受取利息 | 2,788 | |
| 雑収益 | 174,809 | 177,597 |
| 6. 基金からの取崩額 | | |
| (1) たぶんか子ども基金取崩額 | 1,192,960 | |
| (2) 新宿家賃基金取崩額 | 997,000 | |
| (2) 通学定期基金取崩額 | 672,500 | 2,862,460 |
| 経常収益 計 | | 59,865,855 |
| II 経常費用 | | |
| 1. 事業費 | | |
| (1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業 | 41,810,253 | |
| (2) 多文化共生に関する人材育成事業 | 1,107,959 | |
| (3) 多文化共生に関する情報提供事業 | 600,301 | |
| (4) 外国人の家族と子育て支援事業 | 995,869 | |
| (5) その他の非営利活動事業 | 41,985 | |
| 事業費 計 | | 44,556,367 |
| 2. 管理費 | | |
| (1) 人件費 | 4,685,133 | |
| (2) その他経費 | 1,502,107 | |
| 管理費 計 | | 6,187,240 |
| 3. その他損失 | | 17,950 |
| 4. 繰入支出 | | |
| (1) たぶんか子ども基金繰入額 | 1,831,735 | |
| (2) 通学定期基金繰入額 | 444,175 | 2,275,910 |
| 経常費用 計 | | 53,037,467 |
| 税引前当期正味財産増減額 | | 6,828,388 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 120,000 |
| 当期正味財産増減額 | | 6,708,388 |
| 前期繰越正味財産額 | | 15,087,986 |
| 次期繰越正味財産額 | | 21,796,374 |

2014年度 非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

2015年3月31日現在

[税込] (単位:円)

| 資産の部 | | 負債・正味財産の部 | |
|---------------|------------|---------------|------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 【流動資産】 | | 【流動負債】 | |
| (現金・預金) | | 未 払 金 | 5,436,066 |
| 現 金 | 391,569 | 前 受 金 | 1,048,087 |
| 当 座 預 金 | 3,662,495 | 預 り 金 | 226,651 |
| 普 通 預 金 | 23,155,360 | 流動負債 計 | 6,710,804 |
| 現金・預金 計 | 27,209,424 | 負債の部 合計 | 6,710,804 |
| (売上債権) | | 正味財産の部 | |
| 未 収 金 | 1,752,838 | 【基金1】 | |
| 売上債権 計 | 1,752,838 | たぶんか子ども基金 | 1,627,351 |
| (その他流動資産) | | 基金1 計 | 1,627,351 |
| 前 払 費 用 | 236,750 | 【基金2】 | |
| 立 替 金 | 17,180 | 新宿家賃基金 | 539,042 |
| その他流動資産 計 | 253,930 | 基金2 計 | 539,042 |
| 流動資産 合計 | 29,216,192 | 【基金3】 | |
| 【固定資産】 | | 通学定期基金 | 102,616 |
| 建物付属設備 | 674,655 | 基金3 計 | 102,616 |
| 什 器 備 品 | 225,340 | 【正味財産】 | |
| 有形固定資産 計 | 899,995 | 前期繰越正味財産額 | 15,087,986 |
| (投資その他の資産) | | 当期正味財産増加額 | 6,708,388 |
| 敷 金 | 660,000 | 正味財産 計 | 21,796,374 |
| 投資その他の資産 計 | 660,000 | 正味財産の部 合計 | 24,065,383 |
| 固定資産 合計 | 1,559,995 | | |
| 資産の部 合計 | 30,776,187 | 負債・正味財産の部 合計 | 30,776,187 |

2014 年度役員

(50 音順)

| | | | |
|------|---|---|-----|
| 代表理事 | 王 | 慧 | 謹 |
| 専務理事 | 栞 | 木 | 典子 |
| 専務理事 | 飯 | 田 | 秀夫 |
| 専務理事 | 風 | 間 | 晃 |
| 理事 | 李 | | 炫澈 |
| 理事 | 伊 | 東 | 千恵 |
| 理事 | 佐 | 藤 | 均 |
| 理事 | 柴 | 山 | 智帆 |
| 理事 | 鈴 | 木 | 江理子 |
| 理事 | 多 | 田 | 佳明 |
| 理事 | 田 | 村 | 太郎 |
| 理事 | 福 | 田 | 和久 |
| 理事 | 松 | 尾 | 沢子 |
| 理事 | 若 | 山 | 裕司 |
| 監事 | 鴻 | 森 | 大介 |

2015 年度事業計画

1. 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

■たぶんかフリースクール

目的

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業者）や、荒川区の小学校高学年及び中学生に対して、毎日通学し日本語と教科の勉強ができる学びの場と居場所を提供する。最終的には高校進学につなげることを目的とし、外国にルーツを持つ子どもたちが教育を受ける権利を享受できる環境の実現をめざす。

事業内容

学齢超過、不就学、不登校の子どもたちへの日本語及び教科学習の学習を保障するとともに、居場所としての役割も果たす。多様化する子どもたちのニーズに応じて、以下の通りクラスを開講する。

◆たぶんかフリースクール本校

10:00～15:50 1日5時間・週4日

◆たぶんかフリースクール新宿校

9:00～13:00 / 11:10～15:10（9月以降開講予定）1日4時間・週5日

対象：主に学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒、義務教育段階の不就学や不登校の子どもたち

内容：日本語・教科の学習、高校進学サポート、居場所の提供。

◆荒川区ハートフル日本語初期指導 荒川区「ハートフル日本語適応指導対象」

実施場所：荒川区立教育センター内教室

通室による日本語初期指導 9:00～12:00 週4日 2か月

荒川区内の中学校に通う、「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒。

内容：初期日本語の指導。

初期日本語修了後の指導

荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象者（小学5年生～中学3年生）

内容：初期日本語終了後の日本語、または教科の指導。

事業目標

小学校高学年、中学生、学齢超過生、不就学、不登校の子どもたちへの日本語及び教科学習を保障するとともに、居場所を提供する。不登校・不就学の子どもたちは公立小中学校への復学を目指し、高校進学を希望する生徒は高校につなげることを目指す。

■キャリア教育プログラム

ギャップ財団からご支援を受け、たぶんかフリースクール生徒が将来の夢を考え、次の進路につながる「キャリア教育プログラム」を実施する。このプログラムにより、担任を採用し、職業体験などのキャリアイベントを行うとともに、生徒や保護者との面談（10月二者面談・12月三者面談）、進路に関する作文のほか、高校見学や説明会への生徒の引率、日々の生徒対応、受験指導などきめの細かいサポートを行う。また上記以外にも企業との協働でキャリアイベントを開催し、将来や進路について考える機会をつくる。

■アクティビティ

フリースクール講師・ボランティア、企業等のご協力を頂き、校外学習やイベントなどの行事を行う。

■教育・進学相談

当センター及び進路ガイダンス実施時に、年間100件程度の教育や進学、学習に関する相談に対応し、外国にルーツを持つ親子へのサポートを行う。

■たぶんか子ども基金

「たぶんか子ども基金」により、経済的な理由からたぶんかフリースクールに通いたくても通えない生徒へ授業料の一部を支援することで、より多くの子どもたちに学ぶ機会を提供する。UBSグループからのご寄付に加え、年間90万円を目標に広く一般からの支援を呼びかける。

■調査

2016年度の発行を目標に、夏以降に調査活動を始める予定。

■子どもプロジェクト

目的

以下の2つの活動を柱とし、子どもたちへの力づけ（エンパワメント）を行っていく。

事業内容

◆ボランティアによる学習支援 土曜日：15：30～17：30

ボランティアベースでの教科と日本語の学習支援を週1回行う。基本的にはボランティア中心の運営で、マンツーマンによる指導を行う。

◆子どもたちの居場所づくり

学習以外でも、同じ状況の子ども同士が交流する居場所づくりを目指す。

事業目標

年間40人程度の子どもに対して、ボランティアによる教科支援と居場所づくりを行う。

■日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

目的

日本の教育事情に不案内である日本語を母語としない親子のために、日本の高校についての進路・進学・教育制度全般の理解を深めてもらうことを目指す。

事業内容

東京都内を広域対象・地域中心に分け、多言語による逐次通訳の体制を組み、高校進学についての説明会と教育相談を年 6 回実施する。当センター担当会場での通訳は英語・中国語・タガログ語・タイ語・ネパール語の 5 言語を予定。「多文化共生センター東京」「カトリック東京国際センター」「多文化共生教育研究会」「CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会」「武蔵野市国際交流協会」「ピナット」「八王子国際協会」「IWC」「OC Net」「レガートおおた」「青少年自立援助センター」「東洋大学 SPIRIT」の 12 団体で実行委員会を構成し、うち 2 回の事務局を当センターが担う。また、今年度は 2016 年度からの受験方法の変更をうけて、実行委員会として助成金を申請してガイドブックの改訂を行う予定。

事業目標

合計 350 名程度の日本語を母語としない親子に対して、進路、教育制度についての情報を提供する。ガイダンス後、個別でのフォローを実行委員会の団体がを行い、高校進学までのサポートを行う。

2. 外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

■親子日本語クラス

目的

外国にルーツを持つ小学生以上の子どもや保護者を対象に、日本語や教科の学習を支援する。また、同じ状況の子どもや保護者（大人）同士が交流する居場所づくりを目指す。

事業内容

◆日時： 土曜日 13:00～15:00

◆対象：外国にルーツを持つ小学生と保護者（大人）

小学生以上の子どもを持つ親、「たぶんかフリースクール」生徒の保護者、子どものいない大人も含む。

◆内容：ボランティアとの 1 対 1 の学習や全体学習を通じて、日本語や教科の学習支援を行う。また学習者が様々な体験を通じて学習できるよう校外活動を主とするアクティビティを行う。そして同じ状況の子どもや保護者（大人）同士が交流する居場所づくりを目指す。

事業目標

外国にルーツを持つ子どもと大人 10 人以上を目標に、ボランティアによる日本語や教科の学習支援と居場所づくりを行う。

3. 多文化共生のための人材育成事業

目的

「多文化共生」及び「年少者の日本語教育」に関連する研修への講師派遣、活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象とした勉強会、ボランティア講座等により、多文化共生社会を担う人材育成を行う。

事業内容

◆講師派遣

国際交流協会や行政などが行う多文化共生関連の研修に対して 30 件程度の講師の派遣を行う。

◆多文化共生のためのボランティア講座

多文化共生センター東京の活動やボランティア活動に関心のある方を対象に、月 1 回程度の講座を行う。内容は基礎的な知識などを中心に行う。

◆ボランティア・講師勉強会

活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象に、多文化共生や指導法等に関する勉強会を行う。

4. 多文化共生に関する情報提供事業

目的

活動と理念に対する認知を高め、より多くの方の賛同・支援を得るため、web、ブログ、ツイッター、紙ベースの広報誌等多様な広報媒体を使用し、広報活動を行う。当センターの活動と共に外国にルーツを持つ子どもたちの状況や多文化共生への関心を広める。また、インターネットを通じて多文化共生センター東京につながる子ども・保護者が増えていることから、高校進学入試制度等高校進学に関する情報を配信していく。

事業内容

■ウェブサイト

団体の日々の活動や重要なお知らせをタイムリーに配信し、情報が古くなったページの改定を行うことで、広く一般に当団体の活動への共感を広げる。また、入試制度等高校進学に関する情報を必要としている保護者や子どもたちに最新情報を届けられるようなウェブサイトを目指す。

■ニュースレター(みんぐる)

当センターの活動報告を中心に、多文化共生に関するテーマの広報誌を年 4 回発行し、平均 500 部発行配布する。

■ツイッター・フェイスブック

ツイッター、フェイスブックを活用し、当センターの活動報告を頻繁に行う。

■メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

外国人関係ニュース、イベント、当センターの活動内容などのメルマガを定期的に配信する。

■メールリングリスト(多文化だより等)

活動内容を報告する会員向けメルマガや最新の活動報告や多文化関連の情報などをメールリングリスト上に流す。

その他の特定非営利事業

■ たぶんか・ユースフェスタ

今年度も東京ボランティア・市民活動センターとの共催、UBS との特別協賛で、多様な文化的背景を持つ青少年が自分に自信をもち積極的に地域社会へ参加できる場をつくる。また、運営体制はおもに地域の団体と協力し実行委員形式での運営を目指す。

2015年度予算

2015年度 特定非営利活動に係る活動予算書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

[税込] (単位:円)

| 科 目 | 金 額 | |
|---------------------------|------------|-------------|
| I 経常収益 | | |
| 1. 受取会費 | | |
| 正会員受取会費 | 600,000 | |
| 賛助会員受取会費 | 400,000 | 1,000,000 |
| 2. 受取寄付金 | | |
| 受取寄付金 | 8,350,000 | 8,350,000 |
| 3. 受取助成金 | | |
| 受取助成金 | 2,650,000 | 2,650,000 |
| 4. 事業収益 | | |
| (1)外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業 | 20,561,400 | |
| (2)多文化共生に関する人材育成事業 | 740,000 | |
| (3)多文化共生に関する情報提供事業 | 10,000 | |
| (4)外国人の家族と子育て支援事業 | 20,000 | |
| (5)その他の非営利活動事業 | 200,000 | 21,531,400 |
| 5. その他収益 | | |
| 受取利息 | 3,000 | 3,000 |
| 6. 基金からの取崩額 | | |
| (1)たぶんか子ども基金取崩額 | 1,903,000 | |
| (2)新宿家賃基金取崩額 | 539,000 | |
| (2)通学定期基金取崩額 | 600,000 | 3,042,000 |
| 経常収益 計 | | 36,576,400 |
| II 経常費用 | | |
| 1. 事業費 | | |
| (1)外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業 | 36,020,000 | |
| (2)多文化共生に関する人材育成事業 | 900,000 | |
| (3)多文化共生に関する情報提供事業 | 240,000 | |
| (4)外国人の家族と子育て支援事業 | 30,000 | |
| (5)その他の非営利活動事業 | 0 | |
| 事業費 計 | | 37,190,000 |
| 2. 管理費 | | |
| (1)人件費 | 4,716,000 | |
| (2)その他経費 | 2,156,000 | |
| 管理費 計 | | 6,872,000 |
| 3. 繰入支出 | | |
| (1)たぶんか子ども基金繰入額 | 1,900,000 | |
| (2)通学定期基金繰入額 | 500,000 | 2,400,000 |
| 経常費用 計 | | 46,462,000 |
| 税引前当期正味財産増減額 | | -9,885,600 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 120,000 |
| 当期正味財産増減額 | | -10,005,600 |
| 前期繰越正味財産額 | | 21,796,374 |
| 次期繰越正味財産額 | | 11,790,774 |

2015 年度役員

(50 音順)

| | | |
|-------|----|-----|
| 代表理事 | 栞木 | 典子 |
| 理事・顧問 | 王 | 慧槿 |
| 専務理事 | 飯田 | 秀夫 |
| 専務理事 | 風間 | 晃 |
| 理 事 | 加藤 | 千秋 |
| 理 事 | 伊東 | 千恵 |
| 理 事 | 佐藤 | 均 |
| 理 事 | 柴山 | 智帆 |
| 理 事 | 鈴木 | 江理子 |
| 理 事 | 多田 | 佳明 |
| 理 事 | 叶 | 健兒 |
| 理 事 | 福田 | 和久 |
| 理 事 | 松尾 | 沢子 |
| 監 事 | 張 | 正翼 |



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京

〒116-0011 東京都荒川区西尾久 6-9-7 旧小台橋小 3階

TEL/FAX : 03-6807-7937 tokyo@tabunka.jp